

令和6年度第1回滝沢市産業振興会議 会議録

1 会議の名称

令和6年度第1回滝沢市産業振興会議

2 開催日時

令和6年8月20日（火）午後1時30分～午後2時50分

3 開催場所

滝沢市役所2階 大会議室

4 出席状況

(1) 滝沢市産業振興会議委員

役職	氏名	所属団体・役職
会長	市島 宗典	白鷗大学 法学部 教授
副会長	百目木 忠志	滝沢市自治会連合会 会長
委員	阿部 正喜	滝沢市商工会 会長
委員	中島 恒夫	一般社団法人滝沢市観光物産協会 会長
委員	金子 直史	株式会社東北銀行 滝沢支店 支店長

(2) 滝沢市

所属	職氏名
経済産業部	部長 木下 昇三
経済産業部 観光物産課	課長 朝岡 将人
経済産業部 農林課	課長 松本 理
経済産業部 企業振興課（事務局）	課長 佐々木 敬志
経済産業部 企業振興課（事務局）	総括主査 中野 亜希子
経済産業部 企業振興課（事務局）	主査 佐々木 佑

5 傍聴人の有無

なし

6 会議資料の名称

- (1) 次第
- (2) 名簿
- (3) 資料1 令和6年度事業の進捗状況について
- (4) 資料2 産業振興に関する先進事例の視察について
- (5) 参考資料1 滝沢市産業振興条例
- (6) 参考資料2 滝沢市産振会議運営要領

7 会議記録

(1) 開会

(2) 挨拶

会長より挨拶。

(3) 議事

会長が議長を務め、全ての内容を公開することについて、出席した委員から承認を受けた上で議事の進行がなされた。

①産業振興に関する令和6年度事業の進捗状況について

【進行】会長

事務局より産業振興条例に規定する分野ごとに説明を受け、委員から質疑と意見を伺う。分野ごとに担当課長より順次説明願いたい。

【説明】企業振興課長

※別紙「資料1」の内容に沿って説明を実施。

【意見】委員

昨年度ビッグルーフ滝沢で開催された、第1回 SDTs デー「チャグジョブ滝沢」は、皆様のご協力をいただき、非常に良い事業であった。今年度は、同会場で「キッザニア」が開催され、「チャグジョブ滝沢」は総合公園体育館で開催される。

担当する部署が異なり、事業開催に至るまでの経緯も異なると思うが、どちらも良い事業であり、子どもの就業体験という部分は共通している。

市の担当課と商工会青年部がお互いに情報交換をしていくと効果が上がると思うので、その辺りを考えてほしい。

【回答】経済産業部長

私も当初、同じ懸念をしていた。そのため、事業開始前に「キッザニア」を担当している地域づくり推進課と打ち合わせをするとともに、滝沢市商工会青年部へも説明、協議をさせてもらった。

「キッザニア」は、さまざまな職業を体験することに主軸を置くため、地域性が薄れてしまう部分がある。例えば、マスコミ関係であれば、テレビ局や新聞社に出店してもらうが、その分野は市内に事業所がないため、広域で出店を募る必要がある。一方で「チャグジョブ滝沢」は、地域の事業所を紹介することに主軸を置くので、市内に事業所がある業種に限られる。このことから今回は、それぞれが実施するという話になった。

ただし、「キッザニア」の方も、地域の事業所に重点を置く開催もできると思われるので、その辺りのところは、今後も引き続き商工会へも相談しながらやっていきたいと考えている。

【質疑】委員

任期満了となった地域おこし協力隊が、今後もブドウの生産を拡大していくということだが、滝沢市産のワインが特産品になり得るために、市が行う支援等はあるのか。

【回答】 企業振興課長

滝沢市産のワインをつくりたいという提案を受けて、地域おこし協力隊に就任いただいたが、当初から3年間での実現は厳しいだろうと想定していた。実際、就任後に農地を借り、ブドウを定植するところから始めたので、来年ようやくブドウが収穫できる見込みである。このため現在も、ブドウ収穫後にワイン製造をする場所等の相談を受けているところである。

市の特産品に、新たにワインが加わるという素晴らしい取り組みなので、今後も必要な情報の提供や支援等をしていきたいと思う。

【意見】 委員

今後、ワインの醸造が進み、増産ができるようになったら、市主催の懇親会等の乾杯は滝沢市産のワインにする等、広く知っていただく機会を設けて、消費拡大に向けた支援を考えていければ良いと思う。

【回答】 観光物産課長

昨年度から開催している「一たきざわ大地の恵みー まるっと“晩さん会”」では、滝沢市内産の食材やお酒等を持ち寄っていただいて、連携推進や商談機会創出を行っている。このような場においても、委員のご意見のとおり、滝沢市産のワインが市内産食材と足し算、掛け算できるような支援をしたいと考えている。

【回答】 企業振興課長

退任した地域おこし協力隊からも、引き続き滝沢市を活動拠点とし、滝沢市商工会にも加入したいという希望を聞いているので、今後、市内での活躍の場が増えてくると考えている。

【回答】 経済産業部長

ブドウ生産という農業の分野からワインの販売という商業の分野までの広い活動を継続されることから、経済産業部としても、各課が連携して横断的に進めている。市としても今後も継続して、しっかりと連携していきたいと考えている。

また、ワインの販売となると商工会や観光物産協会とも情報共有し検討をしていきたい。そして醸造所をつくるとなれば、金融機関にお世話になることも考えられるので、このネットワークを活かして取り組んでいければと考えている。

【質疑】 委員

岩手県立大学のキャリアデザインⅠの授業には、171名が参加したということだが、学生の反応はどうだったのか。

【回答】 企業振興課長

今年度が初開催で、新聞等でも大きく取り上げられた。イノベーションセンターと岩手県立大学は近距離にあるが、学生からは「今まで、イノベーションセンターの入居企業に直接触れる機会がなかったので、企業を知る良い機会となった」という反響があった。また、岩手県立大学を卒業し、イノベーションセンター入居企業に就職した方が多くいる。その方々が、先輩として学生目線に合わせて企業説明をしてくれたので、学生も親しみを持って話を聞いてくれたようである。

学生から大きな反響があったので、実施して良かったと感じている。大学としても来年度以降も実施したいとのことであったので、継続した取り組みを進めていきたい。

【意見】 委員

良い取り組みだと思うので、ぜひ継続して実施して欲しい。

【説明】 農林課長

※別紙「資料1」の内容に沿って説明を実施。

【質疑】 委員

農地中間管理事業について、市内全域で遊休農地が減少するのが一番の理想であると思うが、進捗状況はどうなっているか。

また、滝沢市の給食に、滝沢市産の野菜はどの程度供給されているのか。

【回答】 農林課長

まず、遊休農地については、高齢化が進み、離農を考える農家が出始める時代になった。ここ数年間取り組んでいる農地中間管理事業により、地域で話し合いが進み、遊休農地を発生させない効果を得られていると考える。また、既に遊休農地になっているところについても、農地中間管理機構のほか、それぞれの農業団体等が農地の回復に取り組んでいる事例がある。

次に、給食については、滝沢市学校給食食材生産供給組合が、滝沢市で生産された野菜や果物の納入を行っている。米については、全て滝沢産を使用し、果物や野菜については概ね10%程度が滝沢産である。

給食の提供食数が多いことから、全部の食材を滝沢産にするのは難しいところであるが、給食センターと組合とで話し合いをしながら進めていると聞いている。

【意見】 委員

野菜を生産している市内農家で、農協に出荷している農家もあると思うが、給食等を活用して少しでも支援できるシステムづくりを進めてほしい。

【回答】 経済産業部長

給食に対する滝沢産野菜の供給に関しては、市内の生産農家の負担にならない程度にバランスが取れていると考えている。給食を調理する際、機材の関係で野菜の規格を統一する必要があるが、滝沢産の野菜だけで、規格が統一された野菜を指定数量供給することが難しい場合もあると聞いている。もっと地場産の食材を使えるようになれば良いと思うが、農家の負担が増えない範囲で支援していければと考えている。

【説明】 観光物産課長

※別紙「資料1」の内容に沿って説明を実施。

【質疑】 委員

第2次滝沢市総合計画に「八幡館山の近くに駐車場を整備する」という事業計画があったと思うが、まだ整備されておらず、熊の出没も多いと聞いている。地域で整備について考えていくとも聞いているが、市としてはどのように考えているか。

【回答】観光物産課長

八幡館山の駐車場整備に関しては、大釜地域の住民の方々がまとめた「地域別計画」で計画されているが、八幡館山の麓には一部民有地があるため、地域の方の協力がなくなかなか進まないと考えている。また、水路も走っているため、車両が奥まで進入するのは難しい部分もある。このため、ウォーキングコースの一部としての活用や、地域と一緒に刈払いを行う連携等を進めていきたい。

八幡館山は眺望が素晴らしく鞍掛山よりも気軽に行ける場所なので、新しい観光資源の一つであると考えている。

【質疑】委員

熊の出没回数が多いというのは、いわゆる「獣道」があるということなのか。

【回答】農林課長

熊が出没した際には、猟友会に連絡し、現地を確認しているが、熊はかなり広範囲を移動するため、どこに住んでいるのか把握できない状況である。

熊に限らず獣は暗がりには寄ってきやすいため、見晴らしの良い状態に整備できれば良いかと思う。先ほどの観光物産課長の話にもあったが、八幡館山は個人の所有する山であり、市が勝手に手を加えることはできないため、地域の方々と話し合いながら対策等進めていければと考えている。

【意見】委員

八幡館山は景観の良い場所であるので、何かに活用できればいいと思っている。大釜地域でそのような計画があるのであれば、ぜひ進めてほしい。

【質疑】委員

チャグチャグ馬コの継承を目的にしたクラウドファンディングは、寄付者はどの程度の人数で、どの地域の方が多かったのか。

【回答】観光物産課長

寄付件数は127件であった。岩手県内の方が一番多く、次いで宮城県や東京都の方だった。前年度は東京都の方が一番多かったが、今年度は岩手県内の方が多かった。また、今年度のように、何かを応援して欲しいというタイプのふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングであると、通常ふるさと納税と比べて「返礼品不要」という方が圧倒的に多く、3割ぐらいの方から、返礼品不要、継承のために使ってほしいという、本当に温かい意向を受けた。

【意見（提案）】経済産業部長

産業振興全体に関して、委員の皆様と意見交換をしたい。

今年度も、さまざまな機会をとらえてスイカを販売してきたが、全国的に見ると販売額の60%をカットスイカが占めている。首都圏であると80~90%程度まで高くなるのではないかと推測している。市内農家は、一口サイズにカットしてケースに詰める加工まで手が回らないのが現状なので、誰かがそのような加工を行えないかと考えている。

これからさつまいもの収穫時期になるが、産直等で評判が良い干し芋の加工についても同様である。

カットスイカや干し芋等、農家の生産物を加工し、販売店に出荷する中間的な組織等が必要であると感じている。もちろん市も何もしないわけではなく、そういうところと連携してやっていきたいと考えている。

産業振興会議の委員の皆さまと、情報共有しながら考えていければと思います発言させていただきました。

【進行】 会長

委員の意見を伺う。

【質疑】 委員

前年度、埼玉県で芋まつりが開催されて、かなり賑わったと聞いているが、どうだったのか。

【回答】 農林課長

観光物産協会、市内の生産者、当課の職員が視察した。多くの出店があり、他の商品との差別化を図るための特徴的な商品づくり、パンフレットや売り方の工夫等に良い刺激を受けたとの報告を受けている。

【意見】 委員

滝沢市内だけではなく、もっと広域で考えたらいかがか。

スイカに関しては、部長と同意見である。首都圏ではスイカを一玉購入して地下鉄で帰宅するのは大変との話を聞いたことがあるので、カットスイカの販売は良いと思う。今日の話は、協力したいと思うので、持ち帰って検討してみたい。

②産業振興に関する先進事例の視察について

【進行】 会長

事務局より説明を受け、委員から質疑と意見を伺う。

【説明】 事務局

※別紙「資料2」の内容に沿って説明を実施。

【質疑】 委員

視察候補の市の人口はどのぐらいの規模か。

【回答】 事務局

本庄市が 77,000 人、上尾市が 220,000 人、佐倉市が 170,000 人となっている。

【質疑】 経済産業部長

視察のスケジュールはどのようになっていたか。

【回答】 事務局

視察先の都合もあるが、11月ごろを想定している。委員の方々の日程と視察先の日程を調整させていただき決めていきたい。

【進行】 会長

それでは、視察については、まず上尾市と本庄市を優先する候補先とし、それが難しいというのであれば佐倉市という方向で、この3候補について事務局が調整することよろしいか。

※全委員異議なし。

③その他

【進行】会長

委員から発言したいことはあるか。

※委員からの発言なし。

【進行】会長

以上で本日の議事を終了する。

(4) その他

【進行】企業振興課長

その他として、何かあれば発言願いたい。

※委員からの発言なし。

(5) 閉会